



GUNMA UNIVERSITY
GRADUATE SCHOOL OF
HEALTH SCIENCES

群馬大学 大学院 保健学研究科 2027



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

Contents

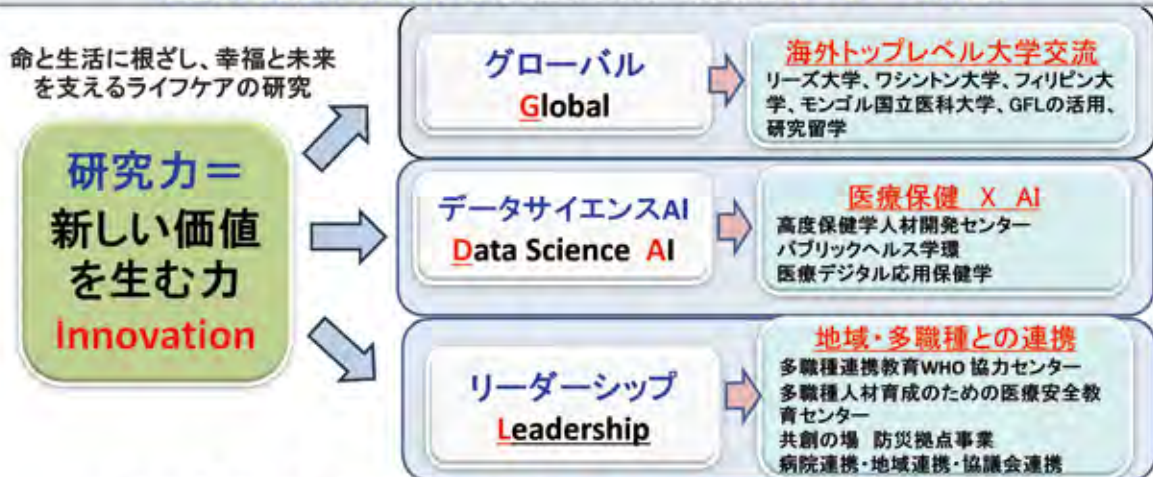
大学院生からのメッセージ	4
修了生からのメッセージ	8
博士前期課程の特徴	10
博士前期課程各ユニットの特色	11
専門看護師（CNS）プログラム	12
専門職養成プログラム	14
パブリックヘルス学環	15
博士後期課程の特徴	16
博士後期課程各領域の特色	18
過去3年間の修了生就職先リスト	19
様々な保健学研究科の様子	20
所属教員と研究テーマ	22
看護学領域	22
生体情報検査科学領域	25
リハビリテーション学領域（理学療法学）	26
リハビリテーション学領域（作業療法学）	27
出願から修了までのプロセス	29
修学支援・教育支援・修了後の進路	30
募集人員・入試日程	31
アクセス・問合せ	32



群馬大学大学院 保健学研究科のビジョン

ビジョン: 世界トップレベルの医学保健学研究教育機関を目指し、
誰もが安心・安全な活力のある社会を実現する。

ミッション: 社会課題に地域や多職種と連携し解決する国際的視野をもつ
社会の発展に貢献する保健学人材・研究者リーダーの育成



これからの日本の発展に**研究力、グローバル力、AI活用力、リーダーシップ力**は必須



保健学研究科長
齋藤 貴之

保健学研究科長挨拶

Gunma University aims to be a world-class Health Science University.

私たちの保健学研究科は、日本有数の規模を誇る保健学の大学院です。世界トップレベルの研究・教育機関を目指し、保健学を通じて社会の変革に貢献していきます。

保健学は、疾患予防や健康増進に関する知識と手段を提供し、社会全体の健康に寄与する学問です。さらに、社会的・文化的・経済的要因が健康に及ぼす影響を探究し、より公正で健康的な社会の実現を目指します。また、命と生活に根ざし、幸福と未来を支える「ライフケア」の在り方を追究する学問でもあります。

現代は、AIをはじめとする科学技術の進展により、急速な変化の時代を迎えています。このような時代に求められるのは、自ら課題を見出し、自ら行動する「主体性」、そして社会や人々の課題を自分ごととして捉える「当事者性」です。学びは個人と社会の成長を支え、より良い未来を創り出す原動力となります。大学院で、一生にわたって役立つ知の技法と実践力を身につけ、主体的に学び、当事者として社会に関わりながら、自らの道を切り拓いてください。

私たちは、高い倫理観と豊かな学識に基づき、実践力を備えた高度専門職業人としてのリーダー、ならびに創造的能力を備えた研究者リーダーを育成します。看護学、生体情報検査科学、リハビリテーション学の各領域における研究実績を基盤に、先端的かつ特色ある研究を推進し、新たな保健医療技術の開発や医療水準の向上を通して、社会に貢献する人材を育成します。

博士前期課程では、「基礎保健学ユニット」「応用保健学ユニット」「地域・国際保健学ユニット」を配置し、職種横断型かつ全人的アプローチによる教育・研究体制を構築しています。博士後期課程では、専門性をさらに深化させるため、「看護学領域」「生体情報検査科学領域」「リハビリテーション学領域」の3領域による体系的なカリキュラムを編成しています。

本研究科の重点戦略は、各専門領域の研究を基盤とした3つの柱、すなわち国際化 (Global)、データサイエンス・AI (Data Science & AI)、そして地域医療連携・多職種連携 (Leadership) です (左頁図参照)。専門分野の深化に加え、本研究科の強みを活かし、個々の能力を最大限に引き出す教育・研究環境を整備しています。高度保健学人材開発センターによる経済的支援、パブリックヘルス学環を通じた社会実装、海外留学、データサイエンス教育、WHO研修など、多様な機会を提供しています。ぜひ積極的に挑戦してください。

大学院で一流の研究に触れ、国際的に活躍できる研究者・医療専門職を目指してください。本研究科が提供する環境のもとで、皆さん一人ひとりの可能性を开花させ、社会に変革をもたらすリーダーへと成長されることを期待しています。私たちは、その挑戦と成功を全力で支援します。

大学院生からのメッセージ

看護学領域

博士前期課程 1番成し遂げたいのは、高齢者に対する現場のケアを変えること



右側が安藤さん

安藤 夏子さん

指導教員：伊東 美緒
内田 陽子

大学院進学の動機

私は東京在住ですが、伊東美緒先生のもとでユマニチュードの研究をしたいと思い群馬大学に入学しました。さらに「もっと知識や技術を身につけて現場の高齢者のケアを良くしたい」という思いから老人看護CNSコースを選択しました。研究だけでなく半年以上にわたる実習が必要となるコースで、大変ですが毎日が学びの連続です。

将来の目標

これまで自分なりに実践してきた看護は感性に頼ってきたようなところがありました。医学的判断、根拠に基づいたケア、倫理的視点、可視化する力、これまでの感性にプラスできる多くの知識を習得していると感じています。この学びを現場に戻って還元することが今の私の目標です。

大学院進学後のライフスタイル

学業、仕事、家庭との両立に目が回る毎日です。大きなカレンダーに予定を書き込むことが日課となりました。通学は往復4時間かかるため、できる限りオンラインで学べるよう先生方が配慮してくださいました。大学院同期の仲間や職場の仲間、上司の理解、家族の支え、全てがあって今の学べる環境が実現しています。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
病院勤務								帰宅	講義・自己学習			

博士後期課程

仲間の輪を広げ、大学院での学びをさらに深めていきたい！

私は群馬大学の博士前期課程を修了し、引き続き後期課程に進学しました。前期課程で学ぶ中で、研究の力だけではなく、臨床実践能力を高めることができていると感じたことが進学のきっかけです。精神科訪問看護ステーション Hopefulを経営しながら、自分自身も看護師として訪問看護を行っていることもあり、精神科訪問看護に関する研究に取り組んでいます。先生のご指導のもと、ゼミの先輩や仲間たちと共に高めあえることに充実感を覚えています。看護研究の成果を看護師の育成や臨床実践に活かし、利用者の方に最適な看護を展開したいと思っています。私の大きな夢は、看護を通して精神疾患をもつ方々が人生の希望を叶える力になることです。



今井 岳大さん

指導教員：近藤 浩子

生体情報検査科学領域

博士前期課程 研究と臨床の経験を活かし、変化し続ける医療の最前線に貢献したいです



黒岩 玲花さん

指導教員：松井 弘樹

大学院進学 of 動機

大学院進学を選択したのは、基礎研究を通じて、社会に貢献してみたいと考えたからです。学部時代の経験をもとに、より高度な研究スキルを磨くとともに、病院研修での実践を通じて専門性を高めたいと思い入学を決めました。病院や企業の研究職など、将来の選択肢を広げながら自己研鑽に励みたいと考えていました。

将来の目標

大学院修了後は、病院での勤務を希望しています。大学院での研究や病院研修で培った高度な技術と知識を活かし、より質の高い医療現場の構築に貢献することが目標です。医療の常識が日々変化する中で、常に学ぶ姿勢を忘れず、最新の論文から得られる知見を臨床の場に還元できるような臨床検査技師を目指して挑戦し続けたいです。

大学院進学後のライフスタイル

研究への取り組みが主体的になり、日中は目的に応じて学内を移動しながら研究を進めています。高額な装置を学内で共有することで活用でき、充実した研究環境の中活動しています。同じ場所に固定されないことで、新たな視点を得ることもできます。日中の実験の合間にはTAとして技術指導を行い、夕方からは講義で知識を補完し、自身の理解も深めています。

スケジュール (平日)

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
ミーティング・研究			休憩	研究						講義		帰宅

博士後期課程

有機合成の経験を活かし、生命科学分野の技術革新に焦点を当てた研究活動に取り組んでいく

私は群馬大学の修士課程に入学し、特定のpH範囲内でのみ発光する蛍光色素の合成をテーマとして研究を行ってきました。当初はこの分野に関する知識が乏しかったのですが、柴田孝之准教授の献身的な指導により、蛍光化学に対する理解と情熱を深めることができました。わずかな構造変化によって、色素の蛍光特性が劇的に変化することに、私は強く魅了されました。この経験に刺激を受け、蛍光化学についてさらに学び、この研究分野に必要なスキルを身につけるため、博士課程に進学しました。現在は、タンパク質や抗体用の蛍光標識剤を開発し、生細胞内での挙動を調べています。今後の目標は、合成化学の分野で研鑽を積み、細胞内の未解明な謎を解明するのに役立つ、革新的な蛍光プローブの設計と応用に貢献することです。



Md Ashrafur Islam
(アシュラフル イスラム) さん

指導教員：柴田 孝之

リハビリテーション学領域（理学療法学）

博士前期課程 臨床での疑問を研究につなげ、それを臨床へ還元していきたいです



大学院進学の動機

私は3年間、理学療法士として臨床で働いた後に大学院に進学しました。日々の臨床で生じる疑問を考えたり調べたりすることが楽しいと感じ、さらに深く学びたいと思ったことがきっかけです。また、大学院を修了し活躍する職場の先輩方の姿に刺激を受け、自分も専門性を高めたいと考え、進学を決めました。

将来の目標

大学院修了後は、臨床においてエビデンスに基づいた評価・治療を実践できる理学療法士を目指したいと考えています。また、臨床で生じた疑問をもとに研究にも継続して取り組み、得られた知見を臨床へ還元していきたいと考えています。特に現在取り組んでいるアキレス腱に関する分野について、未解明な点を明らかにしていきたいです。

新井 しほりさん

指導教員：小林 匠

大学院進学後のライフスタイル

大学院入学後は、平日の日は臨床業務に従事し、夜に学校で授業を受けています。授業のある日は早上がりさせていただくなど、職場の協力を得ながら両立しています。授業がない日や休日には研究活動の時間を確保し、データ収集や分析、文献検討などに取り組んでいます。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
病院で臨床業務									授業・研究活動		帰宅	

博士後期課程

大学院での生活は、仕事と勉学の両立でやりがいを感じます

博士後期課程に進学した理由は、研究についてさらに学び、自身で理学療法の実践と研究を実践していくことで、その両面から理学療法を深めていきたいと考えたためです。現在は、介護保険分野におけるリハビリテーションに臨床で関わりつつ、高齢者の上肢・体幹機能について調査を進めています。また、自身の所属する研究室では留学生との関わりもあり、一緒に研究について議論をしたり、文化交流をしたりとより自身の世界を広げることができています。今後、博士課程修了後も臨床と研究の両立を図り、さらなる理学療法の発展に寄与したいと考えています。また、将来的にはより質の高い理学療法を提供できる後進の育成にも関わっていきたくと考えています。



高橋 美結さん

指導教員：田鹿 毅

リハビリテーション学領域（作業療法学）

博士前期課程 疑問点を見つけて自ら研究を進めていけるようになりたい



豊島 綾理 さん

指導教員：菊地 千一郎

大学院進学の動機

大学院に進学したきっかけは、研究への興味と、様々な経験を積みたいと考えたことです。学部生の時に行った卒業研究では、一つのテーマについて自分たちで考え、文献を調べながら研究を進めていく過程、そこから得られる発見に面白さを感じました。また、現在は作業療法士として働いていますが、大学院で経験を積むことで自分の可能性や将来の選択肢を広げたいと考え、進学を決めました。

将来の目標

大学院で学んだ知識や研究の視点を活かし、エビデンスに基づいたリハビリテーションを提供できる作業療法士になりたいと考えています。また、医療現場では後進の育成も重要なため、大学院で学んだ教育学等の知識をもとに、教育にも関わっていきたいと考えています。

大学院進学後のライフスタイル

作業療法士として病院で勤務しながら大学院で研究を行っています。勤務日は職場で業務を行い、帰宅後や休日を利用して文献を読んだり研究を進めたりしています。担当教員と時間が合わない場合はオンラインでミーティングを行っています。忙しさはありますが、臨床で得たヒントを研究に活かしたり、研究の学びを臨床に還元できたりするため、やりがいを感じます。

スケジュール（平日）

9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00
勤務									講義・研究			帰宅

博士後期課程

研究を通して人の健康や社会に役立つ知見を生み出したい

博士後期課程に進学した理由は、卒業研究をきっかけに研究の面白さを実感し、さらに深く取り組みたいと考えたためです。学部卒業後は作業療法士として働きながら博士前期課程に在籍し、仕事と研究活動を両立してきました。その経験を通して研究への関心がさらに高まり、後期課程への進学を決意しました。また、NextGIPという制度に採択され、研究費や研究奨励費をいただいたことも大きな後押しとなりました。現在は一夫一婦制のプレーリーハタネズミを用いて、異性間の絆が記憶や脳に与える影響について研究を進めています。大学院では主体的に研究を進める中で、試行錯誤しながら研究に向き合う日々やりがいを感じています。今後は研究を通して人の健康や社会に役立つ知見を明らかにし、医療へ還元していきたいと考えています。



岩井 花 さん

指導教員：三井 真一

修了生からのメッセージ

看護学領域



松本 幸姫 さん

群馬大学医学部附属病院
北病棟6階 がん看護専門看護師
2023年博士前期課程修了
指導教員：近藤 由香

大学院での生活や研究テーマについて

がん看護専門看護師の資格取得を目指し、大学病院での勤務と両立しながら大学院に通いました。大学院では、若年成人期のがん患者を支援する20～30歳代の看護師がどのような困難に直面し、支援を必要としているかについて研究を行いました。

大学院での経験が、現職においてどのように役立っていますか？

大学院では講義やゼミに加え、半年間の臨床実習に取り組みました。様々な看護理論や論文抄読から得られた学びは、患者や看護をより深く包括的に理解し、根拠に基づいた看護支援を検討する上で非常に役立っています。また、研究を通して臨床における疑問への向き合い方を学んだ経験は、研究課題として新しい知見を探求するための手法の理解に繋がり、公表されている研究成果やエビデンスを臨床に適応して質の高い看護を実践する上での一助となっています。今後はがん看護専門看護師として臨床現場と研究を繋げる役割を担い、がん患者・家族やがん医療に携わる医療者の助けとなれるよう、大学院で培った経験を生かしていきたいと思っています。

生体情報検査科学領域



大森 綺音 さん

群馬大学医学部附属病院
2025年博士前期課程修了
指導教員：齋藤 貴之

大学院での生活や研究テーマについて

大学院での生活は研究活動を中心に、学部生の実習補助や部活動、アルバイトにも取り組んでいました。2年次には国内外の学会に参加し、研究発表を行いました。研究では多発性骨髄腫における細胞接着分子の発現や役割について検討しました。

大学院での経験が、現職においてどのように役立っていますか？

大学院での研究活動を通して、課題を整理し根拠をもって考える力を身につけました。その中で培った論理的思考力や客観的に物事を捉える視点は、現職において大いに役立っています。現在、大学病院でタスクシフトに関する業務に携わっており、これらの力は新たな業務を推進する中で発揮されています。大学病院では新しい取り組みを主体的に進める機会が多く、意見の相違が生じる場面もありますが、自らの考えを整理し、根拠を持って発信することで議論を前に進めています。また、客観的な視点から理想と現実のバランスを見極め、現場の状況に即した実現可能な形へと導く力にもつながっています。大学院での経験は、現場で求められる力の基盤になっていると実感しています。

リハビリテーション学領域（理学療法学）



塩原 あかりさん

群馬県立心臓血管センター
理学療法士
2026年博士前期課程修了
指導教員：山路 雄彦

大学院での生活や研究テーマについて

大学院では、骨盤に着目した男女の骨格差について研究していました。日中は臨床業務に取り組み、夕方や休日に研究を進めていました。論文検索の方法や研究方法の設定など多くのことを学びました。仕事と大学院の両立や研究の進め方で悩むこともありましたが、山路先生の丁寧なご指導と同期の支え、職場の理解もあり無事に修了することができました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

臨床現場における疑問点について論文等を用いて調べることが出来るようになったのは、大学院で論文検索や論文を読む機会が多くあったためだと思います。また、研究方法を考えていく過程で、研究の方法の妥当性や信頼性について考えながら論文を読むことができるようになりました。

大学院では骨格の性差について研究をしていましたが、私が日々対峙するのは循環器疾患を持つ患者様です。大学院進学と就職が同時であったため、毎日学ばなければならないことばかりでしたが、そのおかげでやるべきことに優先順位をつけ、時間を効率的に使えるようになったと思います。大学院では能動的に学ぶことが求められます。自分で考えて行動する力は大学院に進学したからこそ得られたと思います。

リハビリテーション学領域（作業療法学）



佐藤 里沙さん

太田医療技術専門学校
2021年博士前期課程修了
2026年博士後期課程修了
指導教員：李 範爽

大学院での生活や研究テーマについて

常勤の作業療法士として勤務しながら、長期履修制度を利用して博士課程に在籍しました。修士から継続したトイレ動作時の視線の研究テーマに取り組み、臨床と研究を往復する生活の中で実践に基づく知見を深めました。

大学院での経験が、現職においてどの様に役立っていますか？

大学院では、臨床で生じる疑問を理論的に整理し、根拠に基づいて考察する力を養いました。現在は専門学校で作業療法の科目を担当していますが、評価や介入方法を単に手順として教えるのではなく、「なぜその支援が必要なのか」「どのような根拠があるのか」を踏まえて説明することを心がけています。週一回の病院勤務でも研究的視点を持って実践を振り返ることで、臨床と教育を結びつけることができている。大学院で培った多角的に考える習慣と探究心は、学生に専門職としての在り方を伝えるうえで大きな支えとなっています。

博士前期課程の特徴

近年、グローバルな感染症の拡大、高齢化社会、生活習慣病、医療者の地域偏在など、人々が健康を維持するための課題が急速に拡大しています。これらに対して、保健学研究科は人々の健康に対する保健システムの観点から健康を探究していきます。

博士前期課程では、保健学の基礎的な分野を扱う「基礎保健学ユニット」、保健学研究の成果を疾患治療に応用する分野を扱う「応用保健学ユニット」、そして地域の問題や国際的な分野を扱う「地域・国際保健学ユニット」の3ユニットが設置されています。学生は、「看護学領域」、「生体情報検査科学学領域」、「リハビリテーション学領域」の専門領域によって更に区分される9つの分野のいずれかに所属しますが、専門領域にかかわらず各ユニットのコア科目の履修が義務づけられており、職種専門領域を横断する教育システムによって保健学を包括的に研究することを当研究科の特徴としています。

その他に、がん看護、慢性疾患看護および母性看護の専門看護師養成コースや、指導的臨床研究コーディネーター管理者養成コースも開設しています。

領域 ユニット	看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎保健学 ユニット	基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用保健学 ユニット	応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際保健学 ユニット	地域・国際 看護学分野	地域・国際 生体情報検査科学分野	地域・国際 リハビリテーション学分野

教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

〈人材育成の目標〉

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を有する人
- 2 専門分野での教育や研究を実践するための基礎的な能力を有する人
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる人

〈入学者に求める能力・資質〉

- 1 博士前期課程の学修に必要な学士レベルの知識・技能を有している人
- 2 研究活動に必要な論理的思考力、コミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉の分野で高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人
- 4 修了後に保健学専攻博士後期課程に進学し、保健学の研究者、教育者又は高度専門職業人を志す人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

〈教育の目標〉

- 1 全人的医療を理解し、高度な専門知識と技術を修得する教育
- 2 専門分野の教育や研究を実践するための基礎的な能力を育成する教育
- 3 地域の保健医療・福祉専門職として活動が実践できる能力を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野の活動が実践できる能力を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

〈学位授与の条件・達成度・能力評価の条件〉

- 1 所定の年限在籍し、かつ、博士前期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士前期課程論文（修士論文）を作成した者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士前期課程各ユニットの特色

基礎保健学ユニット

(基礎看護学分野／基礎生体情報検査科学分野／基礎リハビリテーション学分野)

保健学全般に共通する理論、技術の構築、開発と評価、さらに保健管理における諸課題を対象とした研究及び教育を行います。また、分子情報の解析などの検査技術の開発やリハビリテーションの対象となる生体運動・精神機能の分析方法などの基盤的保健学教育及び研究指導を行います。ここで扱う研究は保健サービスの人的あるいは物的な管理の向上、また保健課題に対しての分析方法や、それから得られた情報の有効利用を目指すものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「サービスの提供」や「情報」に合致するものです。

応用保健学ユニット

(応用看護学分野／応用生体情報検査科学分野／応用リハビリテーション学分野)

がん、慢性病、精神疾患や母性・小児疾患の看護やケア、心電図などの生理学的検査や病理診断技術、あるいはスポーツや作業活動に対するリハビリテーションなど保健学研究の成果を疾患・障害に対する治療に応用する分野の研究及び教育指導を行います。病を持つ人の適応、効果的な看護技術や効果的なリハビリテーション技術の検証と開発及び疾患検査法の開発などが含まれます。さらに、高度専門医療人である専門看護師（慢性疾患看護、がん看護、母性看護）及び臨床研究コーディネーター管理者の教育、養成を行います。ここで扱う研究は効果的臨床応用を目指して保健医療の知識・技術を高めるものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「医療技術」に合致するものです。

地域・国際保健学ユニット

(地域・国際看護学分野／地域・国際生体情報検査科学分野／地域・国際リハビリテーション学分野)

地域で生活する個人、家族、集団及び地域社会全体を対象とした保健学知識、技術に関する教育及び研究を指導します。また、国際保健学分野における諸課題を対象とした教育及び研究指導を行います。さらにチーム医療教育機関のネットワークJapan Interprofessional Working and Education Network (JIPWEN) を活用し、国際的・多職種連携医療教育を推進します。ここでは地域医療の崩壊に伴う諸課題を、地域から、そして国際社会の観点から研究するものであり、WHOの提唱する保健システム強化アプローチの「保健人材」に合致するものです。



専門看護師（CNS）プログラム

— CNSとは？

専門看護師（Certified Nurse Specialist）のことで、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して質の高い看護を提供するための専門分野の知識・技術を有する看護師のことです。

— CNSになるためには？

看護師免許を有し、通算5年以上の実務経験（うち3年間以上は専門看護分野）、ならびに大学院博士前期課程での学修が必要です。その後、日本看護協会の認定審査を受けて合格すればCNSの資格が取得できます。

— 群馬大学でもCNSの勉強ができるの？

本学は群馬県で唯一CNSコースを有する教育機関であり、がん看護・慢性疾患看護・母性看護の3つのコースがあります。すべてのコースは、専門看護師の発展型であるケアとキュアの融合を目指す高度実践専門看護師教育課程（38単位）を実施しています。CNS認定審査に合格した本学修了のCNSは、病院、診療所、在宅ケア施設等で活動すると共に、大学で講義を行うなど看護学の向上のためにも活躍しています。

CNSについては、こちらをご参照ください
<https://gununi.health.gunma-u.ac.jp/>



がん看護

がんとともに生きる人を支えるがん看護専門看護師を育成します

がん看護学専門看護師コースは、すべてのがん看護の基本となる「緩和ケア」をサブスペシャリティにしています。これまでに31名の修了生を輩出、県内外でCNSとして活躍しています。実習では、本学を修了したCNSの指導を受けた後、自施設での実習でもCNSの指導が継続して受けられるようにしています。本学CNS 1期生の認定と同時に、群馬県がん看護専門看護師連絡協議会を結成し、事例検討、キャリアアップ、情報交換だけでなく、修了生の認定審査申請のサポートも行っています。

また、従来からのe-learningによる講義を推進するとともに、がんプロフェSSIONAL養成プラン採択事業として、新たにごん治療を支える多領域連携、がんデータ科学推進など専門家、教育リソースの少ない分野の教育を開始しました。これまでに、博士前期課程7名、博士後期課程2名の学生が修了しました。

慢性疾患看護

理論と実践を融合させながらパイオニアとして活躍する慢性疾患看護師を育成します

◆本学が目指す慢性疾患看護専門看護師とは？

外来、病棟、在宅などあらゆる治療環境において、慢性疾患とともに生きる人々に対して、健康増進、疾患管理、療養支援などに関する高度な看護を行う人材です。特に理論と実践の融合を目指し、根拠のある看護を行う看護師を育成します。

◆慢性疾患看護専門看護師コースの授業内容は？

糖尿病、腎臓病、循環器疾患など、生活習慣病を中心とした慢性疾患に関する講義・演習・実習を行っています。授業科目の概要は、慢性病者の理解に関する科目、慢性病者のアセスメントに関する科目、慢性病者への支援技術に関する科目、制度や体制に関する科目、治療や療養を支える治療環境整備に関する科目、実習の5本柱になります。

◆本学、慢性疾患看護専門看護師コースの修了生は？

病院施設での主任や教育担当、自分で起業したナース、大学教員など、医療施設や教育の場など様々な場所で生き生きと新たな道をパイオニアとして切り開きながら活躍しています。

母性看護

母性看護スペシャリストとして幅広く活躍する母性看護専門看護師を育成します

本学の母性看護CNSコースは、母性看護のスペシャリストとしてハイリスク妊婦・褥婦への高度なアセスメントと看護、周産期のメンタルヘルスクアを得意とするCNSの育成を目指しています。

本コースは、「周産期母子援助」をサブスペシャリティとし、ケアとキュアを統合して複雑で解決困難な健康問題を持つ母子とその家族への高度な看護実践ができる母性看護CNSを育成する教育プログラムを展開します。教育内容は、①母性看護分野の専門能力を強化する科目（講義：母性看護学特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）、②母性看護CNSの実践能力を強化する科目（講義と演習：母性看護学特論Ⅳ・Ⅴ、母性看護学演習Ⅰ・Ⅱ）、③母性看護の現場で母性看護CNSの実践能力を養う科目（実習：母性看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の3つの柱から構成されています。

本コースの修了生は、メンタルヘルス外来の立ち上げ、ペリネイタルロスの支援、地域保健センターでの活躍など、様々な場で母性看護スペシャリストとしての役割を發揮しています。



専門職養成プログラム

高度専門医療職を目指す学生は、専門看護師（CNS）の他に、実践的保健学データ人材や臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース、地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラムを受講することができます。

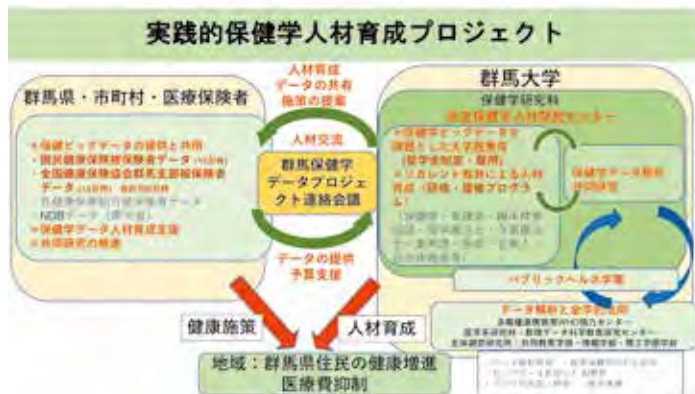
実践的保健学データ人材育成プロジェクト

「データ分析力×専門職」で、データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職人材」の育成

保健学研究科は、群馬県と協働して保健学ビッグデータを用いたICT社会実装人材育成を行うことになりました。群馬県から保健に関するデータの提供と予算の支援を受けて、保健学ビッグデータを活用した大学院教育を行います。奨学金制度を作り、プロジェクト課題に月額5万～20万円の支援を行います。保健学ビッグデータとして国民健康保険被保険者データKDB（15万件）を扱うことができます。

データサイエンスとは、データを用いて科学的に社会に有益な知見を引き出すアプローチのことです。保健の分野では、医療・介護・検診・食事などのビッグデータを解析し、住民の健康増進や予防医学に貢献することが求められていますが、十分な活用ができておりません。

我々の目指すは、「データ分析力×専門職」で、「データ分析ができる、社会に貢献する「スーパー医療職」の人材育成」です。大学院教育では、保健学研究科と数理データ科学教育研究センターと共同で行います。実践的な保健学データを用いた日本初の人材育成の試みです。



臨床研究コーディネーター（CRC）管理者養成コース

臨床研究の高度な知識と実践力を持つ「臨床研究プロフェッショナル」を育成

新しい治療法や予防法を確立するための科学的根拠は、臨床試験をはじめとした臨床研究から得られます。臨床研究の中核拠点となっている世界の研究医療機関では、臨床研究コーディネーター（CRC）やデータマネージャー（DM）と呼ばれる専門職が活躍して、臨床試験や疫学研究が進められています。質の高い研究を行うには、これら専門職のなかでも高度な知識やスキルを身につけた人材を欠かすことができません。しかし、わが国ではこれらの指導的人材を育てられる教育機関はごくわずかです。群馬大学大学院保健学研究科では、2001年の大学院設置当初から、臨床研究専門職の指導者養成のための講義や演習を行ってきました。また、臨床研究中核病院などと連携して実践的な演習を含む「CRC管理者養成コース」を開講しています。コース履修者には、「臨床研究プロフェッショナル（臨プロ）」の称号が与えられます。

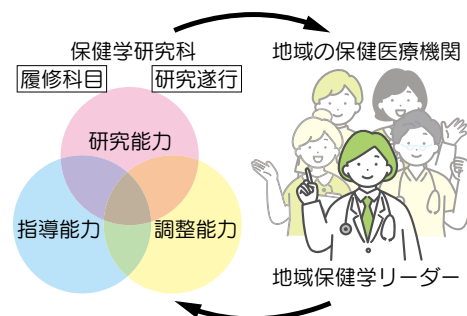
2026年3月までに、30名がコースを修了し、臨床研究プロフェッショナルの称号が授与されています。



地域・大学院循環型保健学リーダーの育成プログラム

地域保健学研究プロジェクトを基盤として、働きながら職場で研究ができる環境を提供します

これまでの教育を発展させ、さらなる地域活動と教育との一体化を目指した新しい大学院教育プログラム「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」を構築し、2007年から3年間文部科学省大学院教育改革支援プログラム（大学院GP）の支援を受けました。2010年度以降も教育プログラムとして継続しています。具体的には、地域の保健医療従事者を社会人学生として受け入れ、所属機関における研究課題を、所属機関と大学との共同で「地域保健学研究プロジェクト」として遂行します。学生はこの課程を通して、研究能力やリーダーとしての能力を体験的に修得し、大学院修了後は「地域保健学リーダー」として、地域保健医療活動の推進や、大学との協働の促進における役割を果たすことが期待されます。2025年度までに57名の学生が本プロジェクトの研究遂行者として認定を受け地域社会で活躍しています。



パブリックヘルス学環(社会健康医学プログラム)

本学環は、本学の医学系研究科と保健学研究科との緊密な連携のもとで編成する研究科等連係課程実施基本組織であり、社会健康医学プログラムを管理・運用しています。2024年度に修士課程（博士前期課程）が設置され、2026年度に博士課程（博士後期課程）が設置されました。**修士課程（博士前期課程）の修了時には、Master of Public Health (MPH) が取得できます。**入学試験も医学系研究科及び保健学研究科と連携していますので、それぞれの研究科の教育課程と併願することも可能です。

社会的に注目されている社会健康医学を学ぶ

社会健康医学は、人集団を対象に様々な角度からデータを分析することで潜在的な健康課題を見出し、その実行可能な解決策を策定し、社会に実装し、その効果を検証する学問です。また、我々は新型コロナウイルス感染症のパンデミックを経験したことで、地域住民の健康保持増進を含む社会健康医学の役割の重要性を再認識しました。しかしながら、我が国では社会健康医学の専門家育成する教育機関が不足していました。本学のパブリックヘルス学環の修士課程（博士前期課程）では、多様化かつ複雑化した社会における健康課題を見だし、解決策を提案できる能力を修得するために、国際的な公衆衛生大学院設置基準である **Epidemiology (疫学)**、**Biostatistics (生物統計学)**、**Health Service Administration (医療政策学)**、**Social and Behavioral Sciences (社会医学・行動科学)**、**Environmental Health Sciences (環境保健学)** の5領域におけるグローバル・スタンダードな公衆衛生学知識を体系的に学びます。博士課程（博士後期課程）では、上記の5領域に関する高度で専門的な知識・技能を修得するための科目を開講し、さらに深く学問を追求します。

知識・技能の修得だけでなく、課題解決力を発揮する高度専門家の育成を目指す

修士課程（博士前期課程）では、社会健康医学分野の最先端の研究をリードする研究者の育成、また、多様な価値観や倫理観が行き交う現場で課題解決力を発揮するためのマネジメント力を有する高度専門家の育成など、社会健康医学の両輪である研究と実践のいずれの分野でも活躍できる卓越した能力を持った人材を育成することを目指しています。また、博士課程（博士後期課程）では、高度な実務・研究能力を有し、パブリックヘルスの実務・研究・教育における指導的立場に立つ人材の育成を目指します。アカデミアのみならず公的機関や産業界で、高度な実務・研究能力を活用して新たな価値を生み出し、社会を変革できる人材を育成します。

<パブリックヘルス学環の特色>

- ✓ 医学系研究科と保健学研究科との緊密な連携のもとで編成する新たな教育課程
- ✓ 人集団を対象とした疾病の予測や予防の研究を行うことが可能
- ✓ 社会健康医学の専門家として必要な知識、技能、課題発見力、課題解決力を身につけた高度専門家を育成



入学試験も連携

医学系研究科 保健学研究科

情報学研究科

公衆衛生大学院プログラム校連絡会議

コンピテンシー

教育の質の担保

社会健康医学プログラム

- ✓ 公衆衛生学 基本5領域
疫学、医療統計学、社会行動科学、保健政策/医療管理学、産業環境保健学
- ✓ 英語・コミュニケーションスキル
レギュラトリーサイエンス
データサイエンス (情報学研究科と連携)
- ✓ 医学
保健学
ゲノム医科学

パブリックヘルス学環では是非学んでいただきたい方々

- ✓ 各地域の健康に係る諸課題の解決のために社会健康医学の知識を獲得したい人 (保健所等自治体職員、病院職員、医療保険関係者、産業保健関係者等)
- ✓ 疫学・公衆衛生学の教育・研究職を志向する人
- ✓ 既存の枠組みにとらわれず、自身が持つ問題意識とデータサイエンスの手法を融合させて健康・医療に関する課題を解決したいという強い意欲を持った人
- ✓ 留学生も歓迎します！

博士後期課程の特徴

博士後期課程では、基礎、応用、地域・国際の3教育研究分野によって縦に構成された看護学領域、生体情報検査科学領域、リハビリテーション学領域の3つの領域から構成されており、各領域の教育研究分野において、それぞれ独自の学問体系を確立するための独創的な教育・研究を進めると同時に、それぞれの領域間を有機的に結びつける学際的な研究を展開することができるよう工夫されています。

- ◎共通コア科目では、教育・研究に必要な原理・方法、国際保健医療推進に必要な能力を修得すると同時に、医学・保健学領域の最先端の情報を得ることで、これからの保健医療・福祉の実践、教育研究の進むべき方向について学修します。
- ◎専門教育科目では、教育研究分野に即した最新の保健医療・福祉に関する情報を修得するとともに教育・研究の現状と問題点の把握、独創性の高い研究論文精読を通して研究の着眼点や展開法を学修します。
- ◎特別研究では、それぞれの領域で独創性の高い研究を進めるために必要な研究計画、研究方法、研究結果の解読力及び考察力を養い、与えられた課題について、学生自らが博士号に相応しい研究論文を完成させ、国内外の学会で発表するよう指導します。

看護学領域	生体情報検査科学領域	リハビリテーション学領域
基礎看護学分野	基礎生体情報検査科学分野	基礎リハビリテーション学分野
応用看護学分野	応用生体情報検査科学分野	応用リハビリテーション学分野
地域・国際看護学分野	地域・国際生体情報検査科学分野	地域・国際リハビリテーション学分野

教育ポリシー

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）～このような人を求めています～

〈人材育成の目標〉

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究が実践できる人
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育が実践できる人
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野での指導者となる人
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育及び研究が実践できる人

〈入学者に求める能力・資質〉

- 1 博士前期課程レベルの保健医療・福祉に関する専門知識と研究経験を有している人
- 2 グローバルな視点で研究を推進し、その成果を広く発信するために必要なコミュニケーション能力、語学力を有している人
- 3 保健医療・福祉等の分野で研究者、教育者又は高度専門職業人として社会に貢献したいと考える人

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）～このような教育を行います～

〈教育の目標〉

- 1 保健医療・福祉分野で、独創的あるいは学際的な研究を実践できる能力を育成する教育
- 2 保健医療・福祉分野で、高度な教育を実践できる能力を育成する教育
- 3 保健学の高度な専門知識と技術を有し、保健医療・福祉分野の指導者を育成する教育
- 4 国際的な保健医療・福祉分野で、指導や教育・研究が実践できる能力を育成する教育

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）～このような人材を育てます～

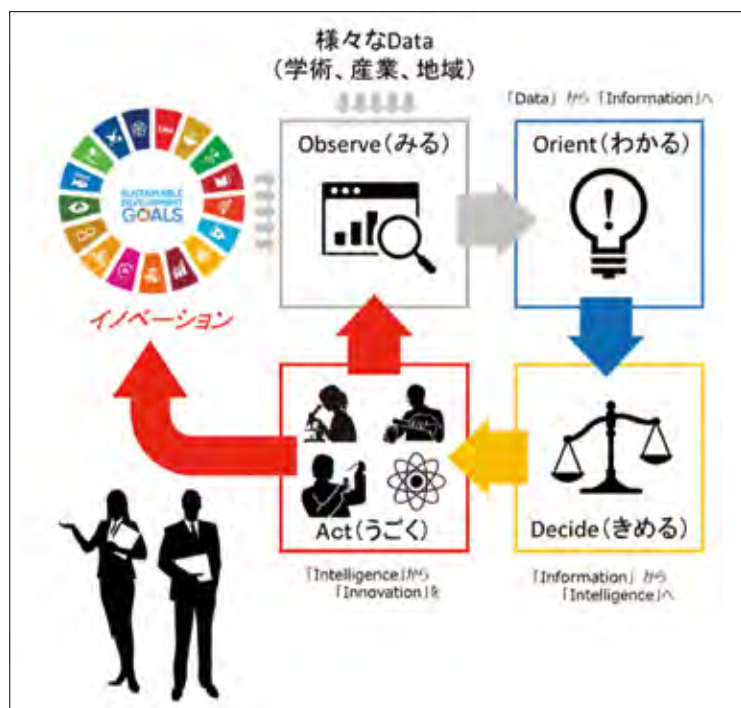
〈学位授与の条件・達成度・能力評価の条件〉

- 1 所定の年限を在籍し、かつ、博士後期課程に定められた単位を修得した者
- 2 学部及び大学院保健学専攻博士前期課程における教育・研究を通して得られた保健学に関する知識・技術・研究基礎能力を更に高め、独創的あるいは学際的な研究を進め、博士後期課程論文（博士論文）を作成し、今後も意欲的に研究活動を進めることができる者
- 3 幅広い学識と高度な専門性、倫理性を身に付けた者

博士後期課程学生に対する助成事業

「次世代Gunma創発的博士人財インダクションプログラム（next-GIP）」について

我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生への経済的支援を強化し、博士人材が幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進めることを目的に、科学技術振興機構（JST）が次世代研究者挑戦的研究プログラム（SPRING）を実施しています。群馬大学のnext-GIPはこのSPRINGに採択され、令和6年度より運用を開始し、Next-GIPに選抜された学生に対して奨励費（生活費相当）および研究費の支給や、キャリア開発・育成コンテンツの提供を始めとする多様な支援を行っています。具体的には、令和9年度の一般学生枠の場合は、奨励費として毎月17万円、研究費として年間45万円が支給される予定です。さらに、国内外学会参加のための経済的な支援を受けられます。Next-GIPは博士後期課程学生が安心して研究に打ち込める環境を提供するプログラムです。Next-GIPの最新情報は、next-GIPのホームページ〈<https://sites.google.com/gunma-u.ac.jp/gu-next-gip>〉でご確認ください。スマートフォンをご利用の方は右下のQRコードを読み取りアクセスしてください。



【Next -GIPの育成像】

【一般学生枠の支援内容】（予定）

- ① 研究奨励費（毎月 17万円）
- ② 研究費（45万円／年）
- ③ 海外・国内学会発表への支援

【国際学生枠の支援内容】（予定）

- ① 研究費（45万円／年）
- ② 海外・国内学会発表への支援

【社会人学生枠の支援内容】（予定）

安定的・固定的収入（240万円／年以上）がある者

- ① 研究費（45万円／年）
- ② 海外学会発表への支援

詳しくは、
右記QRコードから
ご覧ください



博士後期課程各領域の特色

看護学領域

(基礎看護学分野／応用看護学分野／地域・国際看護学分野)

看護学領域の特色は、看護学のKey Conceptsである「人間」「生活」「環境」「健康」「看護」を中核におき、個人・家族・集団・地域を対象に、健康の維持増進、疾病とともに生きる力、健康生活障害からの回復、個人・家族・集団のエンパワメントや組織力を高める課題を取り上げ、看護活動の成果を示すことです。また、現代社会は、慢性病（生活習慣病を含む）・がん罹患者や認知症者の増加、少子高齢社会、ストレス関連疾患の増大、在宅療養者の増加、医療の高度化・多様化、グローバル化の加速、ICTの進歩があります。それゆえ看護学領域の使命は、ストレス緩和と健康生活の維持のためセルフケア能力を高める支援、疾病と共に歩む人々のQOLを高める支援、在宅療養者・高齢者・小児とその介護者や養育者への支援、周産期母子看護、地域や海外で展開される保健医療活動の支援についての課題を探究し、未知の現象の解明、新しい看護実践の技術、ケアシステムを開発することです。手法としては自然科学的アプローチと人間学的アプローチを用います。また、多職種と連携する保健医療福祉活動において自らの専門性を発揮するとともに、多職種間のマネジメント、調整、相談、教育に能力を発揮し、協働的研究に参画できる高度実践看護専門職を養成します。

生体情報検査科学領域

(基礎生体情報検査科学分野／応用生体情報検査科学分野／地域・国際生体情報検査科学分野)

本領域では、高度・先端医療の進展に伴って必要とされる個としての生体からの精密な情報収集のために、分子、細胞、組織、機能など広範な情報解析を目的とした教育・研究を行い、新たな解析技術開発能力を養成します。生体情報検査科学領域の学問体系を確立するとともに、新たな検査技術の開発及び医療機器や医薬品の開発に参画します。病態生理及びその解析技術、超音波検査などの新しい画像解析診断技術の開発応用に関しては代表的な生活習慣病である血管・循環系の疾病等を対象とし、その検査法とその応用法について研究します。続いて、生体に生じる種々な疾病による組織学的・細胞学的変化や血液細胞の形態・動態の変化を免疫組織化学的及び分子生物学的最先端の技法を用いて解析し、疾病の解明に応用する能力や新しい検査技術開発のための研究をします。そして、病理学的検査・細胞学的検査、血液学的検査に精通した専門的知識と能力の養成を行います。さらに、新興・再興感染症等と生体防御機構との関わりや病原生物の特殊検査法開発等の教育・研究を行います。また、環境保健の情報から得られた様々な研究成果に基づき、国際・地域の保健対策と評価を実践できる専門職の養成を目指します。更に、開発途上国の国際感染症等の新検査法についての研究や保健対策を実施できる能力を養成します。

リハビリテーション学分野

(基礎リハビリテーション学分野／応用リハビリテーション学分野／地域・国際リハビリテーション学分野)

リハビリテーション学で対象とする障害についてICF（国際生活機能分類）は、身体・精神的機能、身体運動や身体・精神的活動、社会生活への参加・適応に関する問題として分類し、さらに個人因子・環境因子といった背景因子の影響をあげています。リハビリテーション学は、これらの問題分析や基礎・応用的介入理論と技術の開発、地域及び社会環境の分析と対応といった包括的な科学としての特色を持ちます。また、リハビリテーション学の特性から、保健医療・福祉に関わる専門職者を積極的に受け入れ、学際的な研究・教育者を養成することを特色とします。



過去3年間の修了生就職先リスト

2025年

前期課程

医療・福祉 ※病院名は通称で表記

群馬大学医学部附属病院
医療法人財団健育会 総合東京病院
諏訪赤十字病院
社会医療法人熊谷総合病院
聖路加国際病院
鳥取大学医学部附属病院
日本赤十字社 前橋赤十字病院
東海大学医学部付属病院
日本赤十字社 長野赤十字病院
名古屋市立大学病院
東京慈恵会医科大学附属病院
医療法人社団日高会
社会医療法人全仁会
美原記念病院
群馬県立心臓血管センター
内田病院
合公立藤岡総合病院
医療法人博仁会 第一病院
医療法人本庄福島病院 本庄総合病院
群馬県済生会前橋病院

教育

College of Health Sciences Luang Prabang(ベトナム)

企業・法人等

一般社団法人フォーリーフクローバー
ひのさかメディカルワークス合同会社
キヤノンメディカルシステムズ株式会社
EAファーマ株式会社
株式会社日立ハイテク
栄研化学株式会社
キッセイ薬品工業株式会社
株式会社ビー・エム・エル
株式会社オルトメディコ
株式会社エクスプレーン
株式会社リハビリウォーク

後期課程

医療・福祉 ※病院名は通称で表記

地域医療機能推進機構 群馬中央病院
沼田脳神経外科循環器科病院

教育

太田医療技術専門学校
学校法人常陽学園 東京医療学院大学

企業・法人等

学校法人中村学園
アイオン株式会社
独立行政法人国際協力機構

2024年

前期課程

医療・福祉 ※病院名は通称で表記

医療法人今村クリニック
群馬大学医学部附属病院
横浜市立大学付属病院
公益財団法人老年病研究所附属病院
医療法人社団東山会 調布東山病院
盛岡医療生活協同組合
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院
日本赤十字社 長野赤十字病院
慶應義塾大学病院
国立大学法人東京医科歯科大学病院
国立大学法人東京大学医学部附属病院
公立大学法人横浜市立大学
社会福祉法人賛育会 賛育会病院
社会医療法人熊谷総合病院
みかん訪問看護リハビリステーション
美原記念病院
黒沢病院
東京都リハビリテーション病院
東前橋整形外科病院
医療法人社団明芳会 高島平中央総合病院
群馬県医師会群馬リハビリテーション病院

教育

高崎健康福祉大学
学校法人青洲学園東都大学
学校法人群馬パース大学
公立大学法人名古屋市立大学
学校法人青葉学園 東京医療保健大学

企業・法人等

ユナイテッド・ワールド・カレッジISAKジャパン
IOVIAジャングループ
Meiji Seikaファルマ株式会社
H.U.グループホールディングス株式会社
シミックヘルスケア・インスティテュート株式会社
株式会社エスアールエル

公務

埼玉県飯能市役所
前橋市

後期課程

教育

学校法人京都橘学園 京都橘大学
学校法人日本医科大学
長野保健医療大学
群馬医療福祉大学昌看護学部
香港国際大学(中国)

公務

秩父市役所

2023年

前期課程

医療・福祉 ※病院名は通称で表記

あさくらスポーツリハビリテーションクリニック
伊勢崎市民病院
県立小児医療センター
石井病院
群馬中央病院
前橋赤十字病院
利根中央病院
群馬大学医学部附属病院
岩手県医療局
獨協医科大学病院
佐野厚生農業協同組合連合会
埼玉よりい病院
埼玉医科大学病院
深谷赤十字病院
東京大学医学部附属病院
日本医科大学付属病院

教育

高崎健康福祉大学
前橋医療福祉専門学校
国立大学法人群馬大学

企業・法人等

株式会社クライム
積水メディカル株式会社
PHC株式会社
東洋紡株式会社
株式会社アイロムグループ

公務

高崎市

後期課程

医療・福祉 ※病院名は通称で表記

内田病院
公立七日市病院
上武呼吸器科内科病院

教育

群馬医療福祉大学
城西国際大学
帝京科学大学

詳しくは、群馬大学のこちらのページを
ご覧ください。
<https://www.gunma-u.ac.jp/career/car005/g2079>



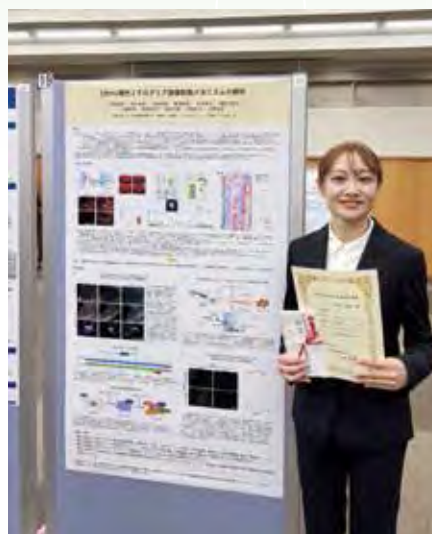
様々な保健学研究科の様子



看護学領域（前期・後期）



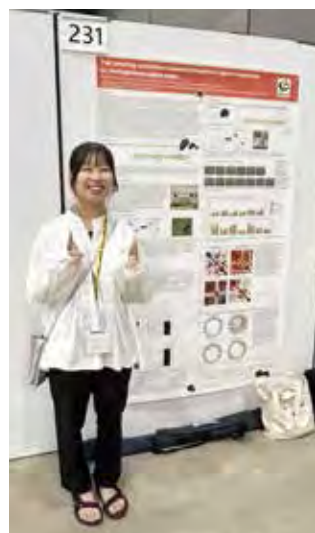
生体情報検査科学領域（前期・後期）



リハビリテーション学理学療法学領域（前期・後期）



リハビリテーション学作業療法学領域（前期・後期）




所属教員と研究テーマ

●博士前期・後期課程特別研究担当教員（指導教員）

○博士前期課程特別研究担当教員（指導教員）

・上記の印がない教員は研究指導を行うことはできませんが、共同で研究活動を行うことは可能な場合があります。指導を希望する教員にご相談ください。

 食健康科学教育研究センター兼任

 パブリックヘルス学環兼任

[*] 2028年3月31日退職予定

[**] 2029年3月31日退職予定

※各教員の担当する課程・研究テーマ等は学生募集要項と異なる場合があります。出願に当たっては、必ず担当教員にご相談下さい。

E-mail address : @以下にgunma-u.ac.jp

看護学領域

基礎保健学ユニット：基礎看護学分野

●小澤 厚志・教授  ozawaa@

- ① 遺伝性腫瘍症、代謝疾患の発症機構に関する分子生物学的研究
- ② 遺伝性疾患患者・家族のマネージメントに関する研究
- ③ 慢性疾患患者の長期管理に関する研究

●上星 浩子・教授 hiroko-jo@

- ① 看護介入における効果の検証
- ② 看護師の臨床判断に関する研究
- ③ 看護教育に関する研究
- ④ 慢性疾患をもつ患者の経験と思いに関する研究

●高井 ゆかり・教授 takaiyuka@

- ① 看護管理学に関する研究（看護職への支援やキャリア開発など）
- ② 多様な対象者に対するケアの質の向上に関する研究
- ③ 家族支援に関する研究
- ④ 看護システムの構築および評価に関する研究

・富澤 理恵・准教授 gu.tomizawa-rie@

遺伝環境交互作用、双生児研究、腸内細菌叢、看護チーム、看護教育に関する研究等

・王 妍蘊・助教

外国人看護師の日本での看護実践におけるやりがいに関する研究

・柏瀬 淳・助教

- ① 在宅療養をする医療的ケア児やその家族を支える看護に関する研究
- ② 内服薬を必要とする小児の服薬管理に関する研究等

・八木原 ひなた・助教

看護師のメンタルヘルスに関する研究

応用保健学ユニット：応用看護学分野

●新井 陽子・教授 yk-arai@

- ① 周産期メンタルヘルスに関する研究
- ② 家族看護に関する研究
- ③ ハイリスク妊産婦支援に関する研究

●大山 良雄・教授** ohyamay@

- ① 糖尿病に関する研究（予防、治療、療養指導など）
- ② 慢性疾患の栄養管理に関する研究
- ③ 慢性疾患のトータルマネジメントに関する研究

●岡 美智代・教授** michiyooka@

- ① 生活習慣病を中心とした慢性病患者におけるセルフマネジメントに関する研究
- ② 慢性病患者のケアに関するエビデンスや費用対効果に関する研究
- ③ 患者教育に関する研究
- ④ 慢性病看護の専門性ならびに慢性疾患看護専門看護師の役割の研究



岡研究室
<https://oka.dept.health.gunma-u.ac.jp/>

●金泉 志保美・教授 kanaizumi@

- ① 慢性疾患や障害をもつ子どもの在宅ケアに関する研究
- ② 子どもの退院支援に関する研究
- ③ 入院中の子どもの日常生活や発達を支援するための研究

●近藤 由香・教授 yukondo@

- ① がん患者の症状緩和に関する研究
- ② がん患者のリラクゼーション法に関する研究
- ③ がん患者や家族の緩和ケアの開発に関する研究

●篠崎 博光・教授* h_shinozaki@

- ① 禁煙支援に関する研究
- ② ウィメンズ・ヘルスならびに周産期医療に関する研究
- ③ 周産期医療における人材育成に関する研究
- ④ 栄養管理・栄養支援に関する研究

○國清 恭子・准教授 kunikiyo@

- ① 出産体験・出産体験の振り返りの支援に関する研究
- ② 周産期のメンタルヘルスに関する研究

○牧野 孝俊・准教授 tmakino@

- ① 父親の育児に関する研究
- ② 慢性疾患患児のストレスに関する研究
- ③ 多職種連携による看護の有効性向上に関する研究

○高橋 さつき・准教授 satsukit@

- ① ICTを活用した患者教育の開発・評価
- ② 慢性期看護に関する研究等



腎臓ケア eラーニング講座
<http://plaza.umin.ac.jp/~jin>



腎臓アプリ (iOS版)
<https://x.gd/bkn18>



腎臓アプリ (Android版)
<https://x.gd/m6lly>

○京田 亜由美・准教授 ✉ akyota@

終末期、治療期のがん患者・家族への緩和ケアに関する研究等

- ① 終末期のがん患者・家族への緩和ケアに関する研究
- ② がん治療と生活に関する研究

・塚越 徳子・助教

がんと認知症を併せ持つ患者への看護支援の研究等

・深澤 友子・助教

周産期の母親のメンタルヘルスに関する研究

・松本 光寛・助教 

- ① 慢性疾患の看護に関する研究
- ② ICTを活用した教育システムに関する研究等


地域・国際保健学ユニット：地域・国際看護学分野

●内田 陽子・教授* ✉ yuchida@


- ① 高齢者ケアのアウトカムを基盤とした評価システムの開発
(認知症ケア、EOLC、包括的BPSDケアシステム® 等)
- ② 地域住民に対するEOLCの意思決定とアウトカムを高めるケア
- ③ ケアマネジメントに関する研究



老年看護学講座
<http://bpsd.jp/>

●大庭 志野・教授  ✉ oba@

- ① 生活習慣病のリスクに影響を及ぼす曝露要因の疫学研究
- ② 国際的な比較検討に資する集団のための尺度開発の研究
- ③ リスク因子の知識と疾病予防行動の研究

●佐藤 由美・教授  ✉ satoy@

- ① 自治体における保健師の活動方法と評価に関する研究
- ② 保健師の専門能力、人材育成に関する研究
- ③ 地域におけるケアマネジメント、ケアシステム構築に関する研究

○辻村 弘美・准教授  ✉ tujimura@

- ① 在日外国人を対象とした健康やヘルスリテラシーに関する研究
- ② 文化や地域性を考慮した看護ケアや対象理解に関する研究
- ③ 途上国を対象とした看護技術や看護教育に関する研究

・尾崎 誠哉・助教 ✉ ozaki-masaya@

保健師が行う災害対策に関する研究、ヘルスビッグデータを活用した疫学的解析

・橋本 紗織・助教 ✉ murosao@

- ① がんサバイバーのピアサポートに関する研究
- ② へき地におけるACPに関する研究

・松井 理恵・助教

家族や地域での子育て支援等

生体情報検査科学領域

基礎保健学ユニット：基礎生体情報検査科学分野

●多胡 憲治・教授 ktago@

- ① 低分子量Gタンパク質Rasが制御する発がんシグナルに関する研究
- ② がん、心疾患や糖尿病を制御するGタンパク質シグナルに関する研究
- ③ がん抑制遺伝子産物が制御する細胞内シグナル伝達系に関する研究

●柴田 孝之・准教授 tshibata@

- ① 抗がん剤の副作用を回避する投与前検査法の創生
- ② 機能性蛍光色素の合成と細胞イメージングへの応用
- ③ 生体成分の高感度検出法の開発
- ④ 化学修飾を施した人工核酸の設計・合成および生物学的評価

応用保健学ユニット：応用生体情報検査科学分野

●齋尾 征直・教授 saio@

- ① 細胞診断学における各種細胞所見の包括的理解のための病理・細胞形態学的研究
- ② 核構造・形態の変化に影響を及ぼす因子についての細胞生物学的研究
- ③ 病理組織の各種染色の定量性における画像解析の応用法の研究



病理細胞診研究室
<https://health-pathology.health.gunma-u.ac.jp/>

●齋藤 貴之・教授** tsaitoh@

- ① 血液疾患・腫瘍の分子生物学的研究
- ② DNA修復の研究
- ③ 群馬県と協働した保健学データの解析



血液研究室
<http://ketsuken-gunma.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=16646>

●中村 和裕・教授 knakamur@

神経変性疾患の治療法開発

●松井 弘樹・准教授 hmatsui@

- ① 脂肪酸の質的制御による疾患予防・治療へ向けた研究
- ② 心肥大、動脈硬化、肺気腫モデル動物を用いた病態解析
- ③ 生理機能検査を用いた循環器疾患のリスク解析



松井研究室
<http://heart.health.gunma-u.ac.jp/>

●西島 良美・講師

婦人科病変の早期発見、早期診断への貢献を目指す研究

●大川 貴史・助教

群馬県の保健学データを用いた生活習慣病の発症悪化に関連するリスク因子の同定及び機械学習やディープラーニングを応用した疾患発症予測モデルの開発

●後藤 七海・助教（研究科講師）

急性骨髄性白血病や多発性骨髄腫等の血液疾患の病態解明

●小林 さやか・助教（研究科講師）

組織および細胞診検体を対象とした、癌細胞の核の形状変化に関する研究および画像解析に関する研究

●土岐 明子・助教

糖尿病に関連する凝集体タンパクや肥満に関連する分子の研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際生体情報検査科学分野

●佐藤 哲也・教授 ✉ satote@

- ① 個別化ヒトゲノム解析方法の研究
- ② RNAスプライシングバリエーションに関する研究
- ③ 公共データを活用したマーカー遺伝子探索研究

●徳舨 富由樹・教授 ✉ ftokumasu@

- ① マラリア、トリパノソーマ原虫内における脂質代謝の研究
- ② 脂質膜の生物物理学
- ③ 高解像度ライブイメージングから解明する細胞内分子メカニズム

●豊村 暁・准教授 ✉ toyomura@

- ① 脳波（EEG）および磁気共鳴画像法（MRI）を用いたヒトの脳に関する神経科学研究
- ② 吃音の神経メカニズムに関する研究
- ③ 発話や上肢、下肢の運動制御に関する研究



豊村暁研究室
<https://brain.health.gunma-u.ac.jp/>

○兼崎 友・准教授 ✉ kanesaki.yu@

- ① バクテリアの環境ストレス耐性の分子機構
- ② バクテリアを用いた実験室進化実験
- ③ バクテリアと他生物との共生成立のメカニズム

●鬼塚 陽子・助教（研究科講師）

ヒトと寄生虫との相互作用に関する研究

リハビリテーション学領域（理学療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

●久田 剛志・教授* 食 ✉ hisadat@

- ① 呼気ガス分析による炎症性呼吸器疾患の病態解析と呼吸リハビリテーションの効果の評価に関する研究
- ② 呼吸器疾患に対するリハビリテーションの効果についての生理学的評価
- ③ 炎症性呼吸器疾患に対するω3 系脂肪酸由来脂質メディエーターの作用に関する研究

●朝倉 智之・助教（研究科講師）

三次元動作解析等、基礎的研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

●田鹿 毅・教授 八 ✉ tajika@

- ① 運動器疾患における超音波運動器評価研究
- ② 運動器疾患の疫学調査（発症危険因子の検討）研究
- ③ 運動器疾患における理学療法介入に関する多角的評価研究

●小林 匠・教授 ✉ kobataku@

- ① 運動器およびスポーツ疾患の病態の解明
- ② 運動器およびスポーツ疾患に対する理学療法評価・介入の開発
- ③ 運動器およびスポーツ疾患の予防法の考案

※博士後期課程の指導教員承認予定

- 佐藤 江奈・助教
変形性股関節症に関する研究
- 中澤 理恵・助教
成長期（特に中学生年代）のスポーツ傷害予防に関する研究等

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

● 山上 徹也・教授 ✉ yamagami@

- ① 認知症高齢者のリハビリテーションに関する研究
- ② 介護予防（集団・個別介入、評価、地域作り）に関する研究
- ③ 地域におけるリハビリテーション（訪問、通所、施設）に関する研究
- ④ 物・人的環境と対象者の生活機能発揮に関する研究



山上研究室
https://brainreha.jimdofree.com/

- 加藤 大悟・助教
呼吸器疾患のリハビリテーションや評価方法に関する研究
スポーツ障害の予防に関する研究

リハビリテーション学領域（作業療法学）

基礎保健学ユニット：基礎リハビリテーション学分野

● 李 範爽・教授 ✉ leebumsuk@

- ① 視線行動分析法を用いた高齢者や脳血管障害者の自動車運転能力の評価
- ② 視線行動や眼と手の協調、把持力制御を中心とした上肢機能評価
- ③ 多職種連携が保健医療介護人材の心理的安全性に及ぼす影響の検証

● 三井 真一・教授** 🇯🇵 ✉ smitsui@

- ① 異性間の絆による精神神経疾患の予防・回復効果に関する生物学的研究
- ② 精神発達障害に関わる脳内プロテアーゼの機能に関する研究
- ③ 家族の絆がリハビリテーションに与える効果に関する生物学的研究



三井研究室
https://mitsuilab.health.gunma-u.ac.jp/

● 藤田 行雄・教授 ✉ yfujita@

- ① 神経筋疾患の赤外線深度センサーを用いた動作解析
- ② 神経変性疾患の神経病理学的研究

- 田中 浩二・准教授
高齢者を対象とした作業療法とチームアプローチに関する研究

- 野口 直人・助教（研究科講師）
頸椎症や脊椎疾患による物品の把持やリーチ動作などの上肢の運動学的特性に関する研究

応用保健学ユニット：応用リハビリテーション学分野

・下田 佳央莉・助教

- ① Mirror Neuron System の賦活が認知機能に与える影響についての研究
- ② がんのリハビリテーションの効果についての研究

地域・国際保健学ユニット：地域・国際リハビリテーション学分野

●菊地 千一郎・教授 ✉ senichiro@

近赤外線スペクトロスコピーを用いた健常人及び精神疾患における認知機能研究

・十枝 はるか・講師

発達障害の2次障害の予防につながる早期支援の在り方に関する研究

・秋山 稜登・助教（研究科講師）

- ① 定量的指標を用いた上肢機能と視覚機能の分析
- ② 運動・感覚・認知プロセスと日常生活活動との関連性の調査

 @Gundai_OT
(旧 Twitter)

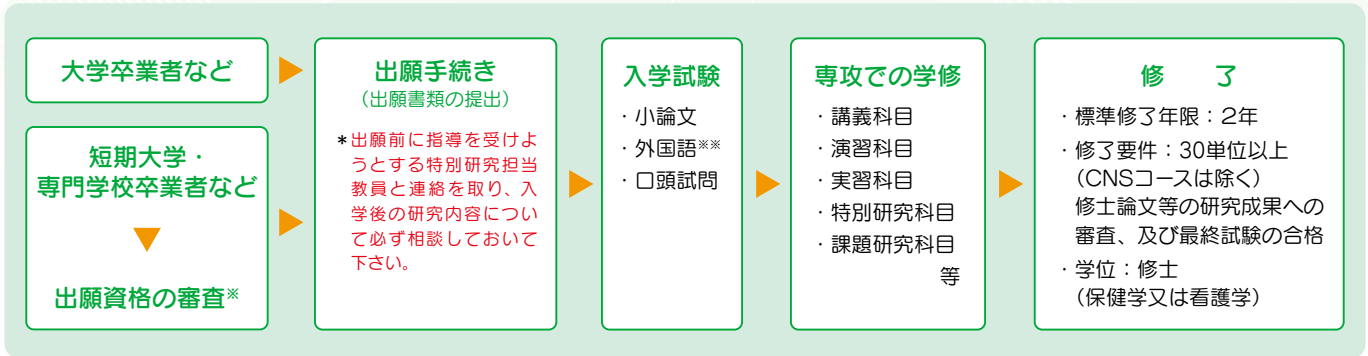


 gundai_ot

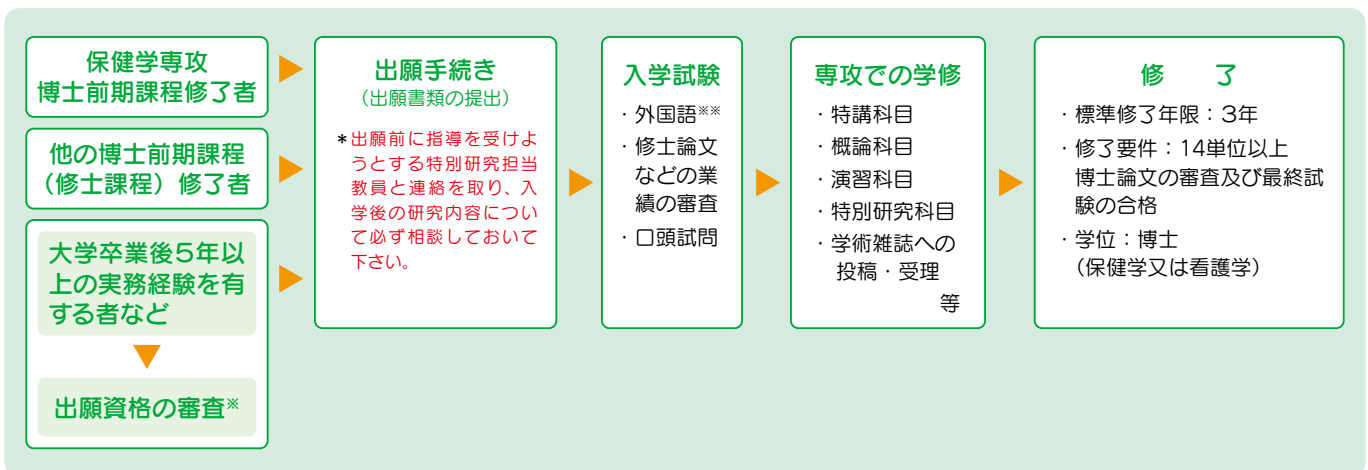


出願から修了までのプロセス

■保健学専攻博士前期課程



■保健学専攻博士後期課程

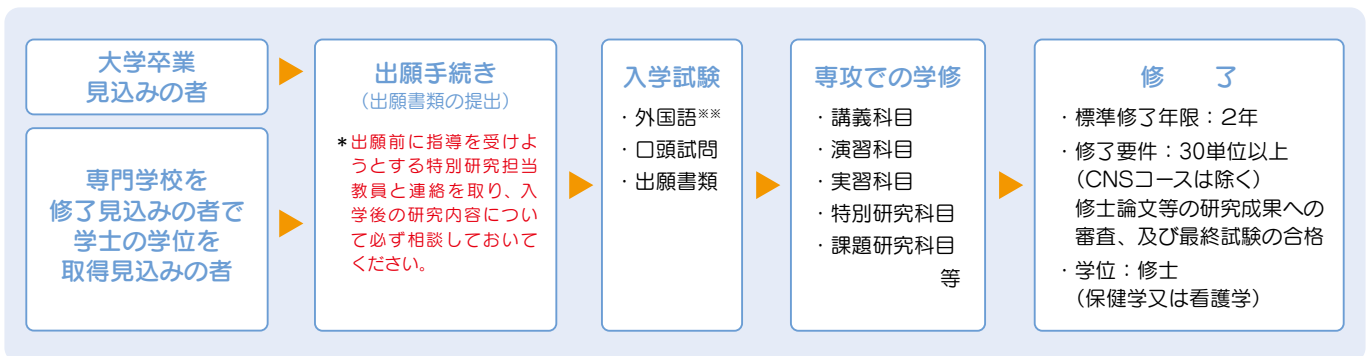


※ 出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

※※ 出願時にETS発行のTOEFL-iBT (internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test (公開テスト)、又はIELTS (Academic Module) のいずれか1つの公式スコア又は公式認定証の提出をもって、外国語(英語)の筆記試験に代えることができます。詳しくは、「学生募集要項」をご確認ください。

■保健学専攻博士前期課程 推薦入試

2026年4月入学より開始



※ 出願資格及び学力試験の詳細は「学生募集要項」をご覧ください。

※※ 外国語試験は、TOEFL-iBT (Internet Based Test)、TOEFL iBT® Home Edition、TOEIC Listening & Reading Test (公開テスト)、又はIELTS (Academic Module) のいずれか1つの公式スコアを出願時に提出してください。群馬大学卒業見込みの者は、大学内で実施したTOEIC-IPのスコアの提出も認めます。詳しくは、「学生募集要項」をご覧ください。

修学支援・教育支援・修了後の進路

修学のための支援

1. 入学料免除・徴収猶予及び授業料免除・徴収猶予

特別な事情により学費の納入が著しく困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の全額若しくは半額を免除する制度があります。また、所定の納期までに、入学料又は授業料の納入が困難であると認められた者に対して、入学料又は授業料の徴収を一定期間猶予することがあります。

2. 奨学金紹介

本学では、日本学生支援機構等による奨学金制度の申請を受け付けています。

3. ティーチング・アシスタント (TA) 及びリサーチ・アシスタント (RA)

大学院生に実習等の教育補助業務に従事してもらい、これに対する手当支給により、経済的な支援を行う制度です。主に博士前期課程ではTA、博士後期課程ではRAとして採用します。

社会人のための教育支援

保健学専攻では保健学研究科設置以前より、職業等を有しながら修学を希望する志願者の学習需要に積極的に対応するため、社会人入試を実施するとともに、長期履修学生制度、昼夜開講制、土日の集中講義による授業を行うことで、職場を辞することなく修了要件を満たし、学位が取得できる教育・研究指導を実施してきました。その結果2025年度博士前期課程では全学生の49%、博士後期課程では80%が主に地域の医療・保健機関で就労している社会人という特徴を有しています。さらに社会人学生の教育支援を行うため、2007年度より「地域・大学院循環型保健学リーダーの育成」プログラムによる地域保健学研究プロジェクトを実施しています。

1. 昼夜開講制、土日の集中講義

開講時間は、昼間：8:50～17:50、夜間：18:00～21:10で土・日曜日にも授業を行うことがあります。ただし、科目によっては土・日曜日は、昼間開講のみになる場合があります。

2. 長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）で修了することが困難な場合、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了する制度です。長期履修学生期間の授業料年額は、規程の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修学生として許可された在学年数で除した額となります。

3. オンラインによる遠隔講義

終業後に大学へ登校することなく、自宅や職場で授業を受けられるようにオンラインでの授業を拡充させてつあります。

海外派遣支援

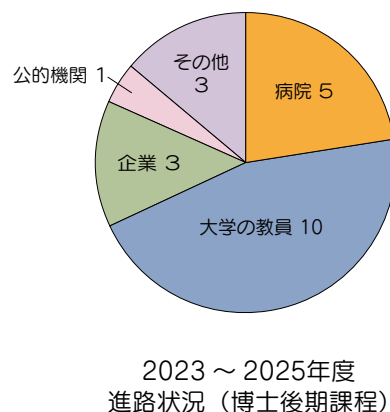
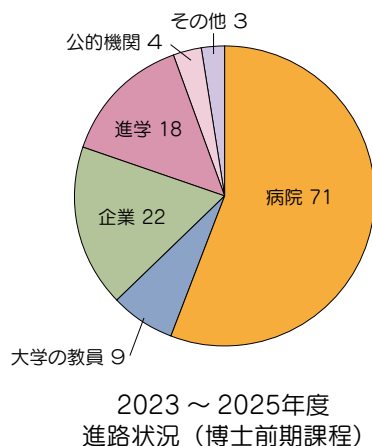
海外での学会発表や海外協定校への派遣プログラムなど、大学院生の海外派遣についても支援制度があります。

1. JASSO 協定派遣奨学金

2. 群馬大学学生海外派遣支援事業奨励金

修了後の進路

博士前期課程及び博士後期課程修了後（在学中に就業しているものも含まれます）は、保健医療・福祉の教育機関（大学、短期大学など）、医療・福祉機関（群馬大学医学部附属病院、公立病院など）、地域保健・行政機関（群馬県、各市町村など）、民間企業の研究開発部門、医療関連コーディネーター（CRCなど）などに多く就職しています。



募集人員・入試日程

募集人員

推薦入試（4月入学博士前期課程）

6月実施予定

専攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	看護学領域 生体情報検査科学領域 リハビリテーション学領域	30名

〈入学者選抜の方針〉

外国語試験（英語）、口頭試問の結果、及び出願書類を総合して判定します。

群馬大学保健学科、外部のどちらからでも出願は可能です。

入試日程や出願資格については、ホームページの募集要項をご確認ください。

博士前期課程

専攻	ユニット	募集人員
保健学専攻	基礎保健学ユニット 応用保健学ユニット 地域・国際保健学ユニット	18名

〈入学者選抜の基本方針〉

小論文と外国語の学力試験及び口頭試問の結果、並びに志願者が提出した成績証明書及び希望する研究の概要等の出願書類を総合して判定します。また、一般入試のほかに社会人入試及び留学生入試を実施しています。

*推薦入試の入学手続きが募集人員（30名）に満たない場合は、原則として、上記入試の募集人員に、満たない人数を加えます。

博士後期課程

専攻	領域	募集人員
保健学専攻	看護学領域 生体情報検査科学領域 リハビリテーション学領域	9名

〈入学者選抜の基本方針〉

学力試験（外国語（英語））、修士課程修了時の提出論文を含む業績又は第一著者として発表した学術論文を含む業績、口頭試問及び学業成績により総合して判定します。また、口頭試問では個別に専門知識及び研究能力に関する試問を行います。

4月入学入試日程（一般・社会人・留学生）

2026年

～7月1日（水）	・出願資格審査締切（該当者） （審査結果は2026年7月22日（水）までに通知します） ・外国人留学生用試験申込締切
7月6日（月） ） 7月30日（木）午後3時	検定料*取扱（納付）期間 *検定料 ¥30,000
7月24日（金） ） 7月30日（木）	出願受付期間（必着）
9月13日（日）	試験実施日
10月9日（金）	合格者発表

*募集人員が上記入試で満たない場合は、第2次募集入学試験（2月頃）を実施します。

10月入学入試日程について（一般・社会人・留学生）

10月入学プログラム	入試日程は、2027年2月頃（第2次募集と同時）を予定
------------	-----------------------------

※必ず学生募集要項をご確認ください。

アクセス・問合せ



問合せ inquiry

群馬大学昭和地区事務部
学務課入学試験係
Admissions Section,
Educational Affairs Office

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町3-39-22
3-39-22, Showa-machi, Maebashi, Gunma 371-8511
電話 Phone : 027-220-7797
E-mail : kk-mgakumu5@ml.gunma-u.ac.jp

特別研究担当教員のプロフィールや研究内容の詳細は群馬大学大学院保健学研究科・医学部保健学科のホームページ (<http://www.health.gunma-u.ac.jp>) をご覧ください。



群馬大学大学院保健学研究科では、X (旧 Twitter) による情報発信も行っています。

X @HealthGu



昭和地区 ■JR両毛線前橋駅下車、北方へ4km、バスで約15分

Access to Showa Campus : Get off at the Maebashi station from JR Ryomo Line and take a bus (about 15min)

乗車場所	バス行き先案内表示	下車停留所	所要時間	備考
前橋駅北口 JR両毛線 2番乗り場	・ 群大病院行 ・ 群大病院経由群馬大学荒牧行 (南橋団地経由含む)	群大病院	約15分	関越交通バス
	・ 渋川駅行 (群馬大学荒牧経由含む) ・ 渋川市内循環渋川駅行 (群馬大学荒牧経由) ・ 小児医療センター行 (群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約13分 徒歩6分	関越交通バス
	・ 前橋駅行 (渋川市内循環、群馬大学荒牧経由含む)	群大病院入口	約30分 徒歩6分	関越交通バス

※JR群馬総社駅及び新前橋駅からは、公共交通機関がありませんので注意してください。公共交通機関の運行状況は必ず最新の情報を確認し、集合時間までに到着できるよう十分に余裕を持って試験場へお越しください。



群馬大学
GUNMA UNIVERSITY

群馬大学大学院保健学研究科
保健学専攻